

パブリック・コメントにおいて指摘された諸課題について

2026年6月

パブリック・コメントにおいて指摘された諸課題について（1 / 2）

- 大阪・関西万博では、開催準備や運営にあたって様々な課題が生じたが、幅広い関係者による日々の継続的な対応がなされた。
- 一連の課題についての検証は、博覧会協会をはじめ、様々な主体において実施されているが、これらは後継組織にも引き継がれ、次期博覧会等への運営ノウハウの提供等の形で活かされていくべきもの。

指摘された課題

チケット購入やパビリオン予約の難しさ

誤情報の発信、デザイナー等の個人への批難・攻撃的な情報発信

会場建設費の増大、費用管理、建設準備工程

海外パビリオンの建設費不払い

撤去、廃棄物処理

国費・自治体負担を含む（税金も含めた）総合的な費用対効果

対応

公式ウェブでのチケット購入の簡素化、コンビニにおけるチケット販売の開始、WEBで簡単に買えるチケットや当日券の導入。予約なしでも楽しめるパビリオンやイベントをHPにて発信。

誤情報等に対しては、博覧会協会等で公式HPやSNS、メディアなど様々な媒体を適切に活用。

節減努力や施工環境改善等、状況を踏まえた調整により合理化。加えて、経済産業大臣の直轄の下で、万博費用（経済産業省関係）の定期的・継続的な点検（外部専門家による確認）を実施。

政府、大阪府、協会等の関係機関が連携し、状況の聴取等により、個別の契約の問題解決に向け後押し。

リユースマッチングサイト（ミヤク市！）による施設等の移築、建材・設備、什器・備品のリユースを実施。

万博開催における経済波及効果の試算結果（約3.6兆円）を公表

パブリック・コメントにおいて指摘された諸課題について（2 / 2）

指摘された課題

バリアフリー等の来場者のアクセシビリティ

安全対策、災害、事故

暑熱・熱中症、日陰不足

会場内環境の問題
(ユスリカ、メタンガス、レジオネラ)

入退場、混雑、会場内動線（待機列等）

交通輸送

会場（人工島）アクセスの脆弱性
(大阪メトロ中央線故障による閉じ込め等を含む)

対応

学識者や当事者等の方々と議論を重ね、「ユニバーサルサービスガイドライン」を策定・公表し、同ガイドラインに即して運営。

開幕前に防災訓練を実施。災害時の一時滞在に備え、備蓄倉庫に90万食分の水・食料を備蓄。また、各種マニュアルの整備、日々の運営をふまえたマニュアルの改善を実施。

日陰の創出や大屋根リング下等の休憩場所の確保、飲料等の配布に加え、体調不良者への対応や医療体制を強化。

すみやかに関係機関等と連携の上、調査を実施。調査結果をふまえ適切な安全対策等を講じ、当該結果や対策内容等について広く発信。

来場日予約制度による入場待ち時間の短縮、パビリオン予約システムの導入による効率管理。万博TDM（交通需要マネジメント）による会場周辺を含めた交通需要の調整。

鉄道直結による大量輸送、入場予約と交通機関の連携、自家用車利用の抑制、万博TDMへの協力などにより、万博来場者の安全かつ円滑な移動と社会経済活動への影響最小化を両立。

会場への交通アクセスが遮断された際の、関係者への情報提供や、会場内の一時滞在施設・飲食の提供等についてマニュアルを整備。